



一般社団法人 日本建築学会

# 東北支部年報

第 39 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: [aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp)

## 巻頭言

### 支部活動のさらなる活性化に向けて

東北支部長 石川 善美

あの震災から8年の月日が流れました。社会では被災の風化が言われるようになっておりますが、いくら時間が経過しても、あの災害で、親族、友人、知人を失った悲しみは小さくなるものではありません。あらためまして、犠牲になられた多くの方々に心からの哀悼の意を表する次第です。本会の使命は、言うまでもなく、建築や地域づくりに関する研究教育、技術開発、設計施工等を通して人々のゆたかな生活を創造することですが、その基盤はなんと言っても防災・減災に代表される安全性の構築であります。震災後の復旧・復興に本会および当支部が果たした役割は大変大きいものがありますが、この問題は、これで十分とすることができる類(たぐ)いのものではありません。不断の努力が必要であり、とくに、ここ被災地である東北は、大震災の教訓を伝承し、それを各地域の防災力向上に役立たせることが求められております。当支部といたしましても、これは、今後とも取り組みを継続しなければならない(我々しかできない)重要な活動の一つと、あらためて、肝に銘じているところでございます。

さて、昨年は、本会最大のイベントである大会がここ東北の地で開催されました。東北大学がその会場となりましたが、これは実に36年ぶりのことであります。詳細は本文を参照頂きますが、1万人を超える参加者、7000題以上の

発表と、盛会裡に終了することができました。支部会員の皆さまのご協力に感謝申し上げますとともに、小林淳大会委員長を始め、松本真一委員長率いる実行委員会諸氏の献身的なご努力に対しまして、衷心より謝意を表したいと存じます。

支部としての各事業につきましても、恒例の東北建築賞、各研究部会、各支所の事業等、いずれも積極的な活動に努めました。一つ残念なのは、「みちのくの風」と称して行われている研究報告会と建築デザイン発表会が、ここ数年の発表件数の伸び悩みから1日行事となってしまったことであります。発表件数の減少が高額な発表登録費(東北支部は近畿支部の3倍!)を招き、これがさらに発表件数を減少させる、といった悪循環に陥っている可能性があります。このままシュリンクすることは避けなければなりません。近年の東北地方の大学等教育機関における建築系学部・学科の微増傾向を考えれば、大学院生や学部学生の発表がもっと増えてもよいように思いますし、そのための日程、場所、経費等の環境整備を再検討しなければならない、とも思っております。是非、皆さまのお知恵をお貸しいただきますようお願いいたします。

最後になりますが、支部会員諸賢のご健勝を祈念して、巻頭言とさせていただきます。

## もくじ

□巻頭言	1	□2018年度第4回東北支部建築デザイン発表会	10
□企画記事	2	□2018年度日本建築学会東北支部総会報告	11
□第39回東北建築賞作品賞選考報告	5	□研究部会活動報告	11
□第39回東北建築賞研究奨励賞選考報告	8	□支所だより	14
□第29回東北建築作品発表会報告	8	□支部役員会から	17
□第38回東北建築賞表彰式及び展示会報告	8	□支部役員名簿	18
□日本建築学会作品選集2019東北支部選考経過	9	□2018年度事業報告	19
□2018年度設計競技東北支部審査報告	9	□2019年度事業計画(案)	21
□2018年度第81回東北支部研究報告会報告	9	□法人・賛助会員名簿	23

## 企画記事

### (1) 2018 年度日本建築学会大会（東北）を終えて

大会実行委員長 松本 真一

2018 年度日本建築学会大会（東北）が9年ぶりに9月4日から6日の3日間の日程で、東北大学の川内北キャンパスをメイン会場として開催され、無事終了しました。東北大学での開催は実に36年ぶりです。最近の大会日程は4日間が主流になりつつありますが、この度は会場借上げの都合で、3日間が前提条件でした。その一方でキャパシティに余裕がないため、「コンパクトな大会」プログラムを運用することが最大の課題でした。こうした課題を抱えながら、小林大会委員長、松本大会実行委員長の下に、東北支部傘下の多数の大学関係会員や支部常議員からなる「オール東北」の実行委員会を組織し、開催まで約1年半、準備活動を行ってきました。

東日本大震災後、初めての東北・仙台での開催となることを意識し、大会を震災からの復興・防災性強化などを見つめ直す機会と捉え、メインテーマを「記憶/未来」としました。記念シンポジウム「祈りを包み込む建築のかたち-福島・世界を念いながら」では、建築における「祈り」の概念を念頭に、地域の抱える様々な課題を共に考えることになりました。また、「被災地域と現代建築をめぐるバスツアー」などの見学会にも多数の方にご参加いただきました。さらには9月2日に、シンポジウム「みやぎボイス2018」をみやぎボイス連絡協議会と共催し、大会を盛り上げるイベントとしました。

「コンパクトな大会」ゆえ、学術講演会は8:30 開始・18:00 終了と異例の設定としましたが、その受容が一番の心配事でした。しかし、地下鉄東西線の便の良さに加え、参加の皆様のご理解とご協力に支えられ、大きな混乱もなく無事終了できました。参加者は合計10,438名で、ほぼ計画通りとなりました。

本大会の運営においては、大会委員会、実行委員会の皆様の他、本部事務局、エージェンツの方々、そして150名を超える学生スタッフ（アルバイト）諸君の献身的なご協力を得ました。各位に感謝申し上げます。

### (2) 「みちのくの風2018 青森」開催報告

前常議員 山口 邦雄

開催日：2018年6月16日（土）

会場：青森県観光物産館アスパム

#### 1) 支部研究報告会

発表題数：79題

参加者：112名

・発表題数・参加者ともに昨年と同等。ただし、来場者全員が記帳していない可能性もあり、実際の参加者はもっと多いものと思われる。

・発表会は、順調に進行された。

#### 2) 建築デザイン発表会

発表題数：9題

参加者：38名

・今年度で4回目の開催であり、昨年度より発表題数・参加者数が増加した。今後もさらなる発表題数の増えることが望まれる。

・発表会は、順調に進行された。

#### 3) 招待講演（会長記念講演会）

テーマ：「信頼に応える建築界を目指して」

講演者：古谷誠章氏（日本建築学会会長／早稲田大学教授）

参加者：74名

・建築学会が今後重点的に取り組む事項の説明、および会長自身が展開しているPBLの取り組みが紹介された。

#### 4) 第4回建築デザイン発表表彰式

参加者：45名

・懇親会会場にて、表彰式が順調に進行された。

・なお、東北建築章表彰式は、5月12日（土）の支部総会時に実施済み。

#### 5) 懇親会

参加者：29名

・前年度同様、一般料金（3,500円）、学生料金（2,500円）とした。

・参加者は、一般32名、学生7名であった。

・青森湾を望む部屋にて、和やかな懇親会となった。

#### 6) 第38回東北建築賞受賞作品パネル展示・JIA 青森地域会作品展示会

参加者：延べ約80名

・展示用ボードが会場にはなかったため、市内レンタル業者に依頼して調達した。

・展示レイアウトが予め周知されており、円滑な準備・撤収となった。

#### 7) その他、全体的な報告事項・反省事項など

・鉄道駅に至近な会場であり、デザイン発表会とパネル展示を行う会場で懇親会も開催したことから、4F、5F、6Fを使ったコンパクトでまとまりの良いみちのくの風となった。

・会場貸与側との調整や懇親会の準備などに開催県の大学教員に負担をかけたが、全体として円滑な開催となった。

・また、前日夕と当日朝の会場準備、撤収作業には多くの

常議員の参加が得られた。

・エントランスとなる 1F に案内紙を掲示する適切な場所がなかったため、会場管理者から参加者から問い合わせの発生していることとの連絡があった。そのため、急きよ 1F に案内用のアルバイト学生を配置した。

### (3) 親と子の都市と建築講座 2018

#### どうやって、おうちを「スマート」にするの？

環境工学部会 菅原 正則

日時：平成 30 年 8 月 5 日、10:00～12:30

場所：せんだい環境学習館 たまきさんサロン

講師：笹川雄司（神奈川工科大学スマートハウス研究センター）  
菅原正則（宮城教育大学）

司会：菅原正則（前掲）

参加者：21 名（小学生 7 名、保護者 5 名、見学者 4 名、運営スタッフ・講師 5 名）

#### 趣旨（案内チラシより）：

「スマート（賢い）」という言葉は、スマートフォンをはじめとする家電製品など、先端技術が使用されて便利なものに付けられるようになりました。これまで身近に使われてきたものでも、新しい技術を加えて「スマート」にすると、便利だけでなく、無駄のない動きをするようになります。住まいがこのように変化したものを、「スマートハウス」と言います。スマートハウスは、主に電気エネルギーを無駄なく使用するしくみをもっています。この講座では、住まいをスマートにする方法について学び、その初歩的なしくみを電子キットで作って確かめます。

#### 内容：

開催に先立ち、司会の菅原氏より講座の趣旨説明があり、その後、はじめの講師として笹川氏が紹介された。笹川氏は、家電製品を遠隔操作するための共通言語となりつつある ECHONET Lite の認証や、HEMS 利用の可能性に関する研究・提案を通して、スマートハウス普及を目指している。今回は、まず笹川氏の日頃の取り組みから、スマートハウスとは何か、そしてその普及の現状についてお話しがあった。その後、菅原氏が開発したスマートハウスのしくみを簡単に表わした模型と電子部品のキットを用いて、スマートハウスの性能を理解する実験を行った。

#### (1) スマートハウスの現状（下記は、講演概要）

「スマート」とは何か。もともと「体つきや物の形がすっきりとしている」「立ち居振る舞いが無駄なく気が利いていて格好良い」という意味があったが、「賢い」や、そこから転じて現代では「高度な情報処理機能が加わった」という使われ方が一般的であろう。住宅におけるスマート化が求

められる背景は、再生可能エネルギー利用において「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」を進めるために欠かせない技術だからである。経済産業省では、2030 年までに、新築住宅の平均的な性能において ZEH の実現を目指すとしている。そしてエネルギー・環境面だけではなく、家事支援や健康・安全の見守り、さらにはネットワーク化された家電の統合的な制御により、生活空間のエンターテインメント性向上も期待できる。

2020 年度から小学校でのプログラミング教育が必修化される。既に Scratch や MESH といった、プログラミングを学習するツールも広く普及している。これらを通して、スマート化の核心である HEMS を使いこなせるようになってほしい。



写真…講師の笹川氏（右）を紹介する司会の菅原氏（左）

#### (2) 電子キットでスマートハウスの実力を体感しよう

まず、LED（消費電力 3W）と Cds 照度センサーを組み込んだ建物模型、センサーボード（ちっちゃいものくらぶ NanoBoard AG）、ノートパソコンを接続し、センサーボードを操作するための Scratch の動作確認を行った。パソコンは LED へ電源供給せず、リレーを通じて Scratch の自作プログラム（ON/OFF モード、可変調光モード、HEMS モードの切り替えと、計測機能を持つ）により出力制御のみ行う。電源と LED 制御の組み合わせについて、①電池+ON/OFF、②電池+可変調光、③手回し発電（コンデンサなし）+可変調光、④手回し発電（コンデンサあり）+可変調光、⑤手回し発電（コンデンサあり）+HEMS、の 5 段階で変化させ、参加者は、それらを比較実験することにより、蓄電（コンデンサ）や HEMS を用いた際の結果の向上を体感した。最後に、③手回し発電（コンデンサなし）+可変調光の組み合わせにおいて、1 分間でどれだけ目標の明るさに調整できるかを競い、成績上位の 3 名に粗品を贈呈した。



写真…電子キットと Scratch プログラムの使い方を説明する  
(3) 参加者の感想

講座終了時に、参加家族5組にアンケートを実施した。  
○講座の内容はいかがでしたか？ 感じたものに○をつけて下さい。

回答は、大変満足2、満足3、やや不満0、不満0であった。電子キットを用いた実験ではトラブルが続出し、部品の交換や修理に追われる事態になったが、おおむね満足して頂けた様子で、内心安堵している。

○よかった点、わかった点をおしえて下さい。

回答には「スマートの使い方がわかった。手作り感が良かったです。」「全部よかった。」「親子で参加ができ、良かったです。」という肯定的なものばかりでなく、「運悪くボロ家ばかりで…。楽しかったです。お手数おかけしました。」「手回しでの発電を、子どもも楽しんで行うことができました。電気を手動でためるのはなかなか難しいと思いました。配線で少し手間どったところがありました。」と、トラブルを指摘するものもあった。全体として好意的であったと受け止めている。

○今後、今回のテーマのような講座があれば参加してみたいと思いますか？

回答はすべて「参加する」であった。関心の高さが感じられた。

○他にどのようなテーマの講座があれば参加したいと思いますか？

回答には「電子工作など」「プログラミングなど」「プログラミング、町づくり」のように、本講座の類似のテーマが挙げられた。

○そのほかに、ご意見・ご感想をおしえて下さい。

回答には、「HEMS のすごさが実験を通してよくわかりました。」「普段の生活でも省エネなど意識したくなりました。」「という、講座内容への理解を伺わせるものがあつた。そのほか、「申し込み締め切り後に、受付完了のメールが欲しかった」という運営面での不備への指摘もあつた。



写真…電子キットの組み立ては親子協力して行われた

今回は講座の企画にあたり、テーマ、開催時期、募集方法を工夫したので、これまでと比べて、参加申込者数の充足に頭を悩ませることは無かつた。実は、申込開始5日で定員に達してしまい、キャンセル待ちをして頂く事態にもなつた。しかし、直前や当日のキャンセルが相次ぎ、定員10組に対する参加者が半分に留まる残念な結果になつた。申込にウェブサイトを用いたこと、その後の参加申込者との連絡が希薄だつたこと、そして参加費が無料であ

つたことが理由と考えられる。

この2ヵ月後に、他団体の主催でほぼ同じ内容の企画を催したところ、申込状況や参加者の満足度からみて、やはり好評であつた。生活機器や空間のスマート化へ関心が高く、プログラミング教育の導入期である現在、本企画を通して、建物性能向上への理解や適切な「住みこなし」が普及することを期待している。

**謝辞** 本企画の開催にあたり、日本建築学会 環境ライフスタイル普及小委員会、住まいと環境 東北フォーラム、宮城教育大学 教員キャリア研究機構 環境教育・情報システム領域からご後援を頂きました。ここに記し、感謝申し上げます。

(文責 菅原正則)

## (4) 親と子の都市と建築講座 2018 ～親と子のやさしい構造力学講座～

福島支所長 新関 永

### 1. 開催趣旨

小・中学生を対象とした建築構造に関するワークショップを通し、建築を楽しく知ってもらい、建築への興味の醸成を図ることを目的とした。

### 2. 開催概要

日時：平成31年3月16日（土）13:00～16:00

場所：福島県建設センター 2階会議室B

講師：福島県建築安全機構 専務理事 古河司氏

参加者：小・中学生親子等25名（6チーム）、

運営スタッフ 6名

### 3. 建築講座

開催に先立ち、講師の紹介や趣旨説明を行った。

#### (1) 座学

講師より「応力の体感」や「力とかたち」に関する座学が進められた。はじめに「応力の体感」では、身近にあるペットボトルを参加者全員が手に取り、持ち上げるなど、引張・圧縮・曲げの応力を体で感じとつた。「力とかたち」では、紙や定規、秤を使い、かたちの違いによる引張・圧縮の応力の違いが説明された。また、断面が長方形で棒状のスポンジを使い、断面形状による曲げへの抵抗力の違いを学んだ。参加者は、メモをとるなど興味深そうに講師の話に耳を傾けていた。



応力を体感する参加者

## (2) ワークショップ

座学を参考とし、ボール紙で60cm間隔の台に架ける「梁」を作成し、吊り下げられるおもりの重さを競った。6チームに別れ、チーム内で自己紹介した後、作る「梁」の形や作業手順を話し合った。イメージした梁のスケッチや図面を描く、縮小版（模型のようなもの）をつくるなど、各チームが独自に検討、作成を進めた。今回は、参加者の創意工夫を尊重し、講師からのアドバイスは最少限とした。



ワークショップの様子

## (3) 計測

「梁」が完成したチームから重さを計測した。最初のチームから事務局の予想を超える重量に耐える結果となり、6チーム全てが工夫を凝らした素晴らしい「梁」を完成することができた。



梁におもりを吊るす参加者

## (4) 講評・表彰

講師から各チームの講評があり、それぞれの特徴や工夫などを参加者で共有した。講評の後、事務局から結果を発表し、支所長から各チームの代表者へ成績をたたえた賞状を授与した。



結果と表彰式

## 4. おわりに

参加者した小・中学生から、「建築に興味を持った」や「建築士になりたい」などの心強い感想が得られた。また、「再挑戦したい」と次回開催を期待する声もあり、本講座の開催趣旨は達成されたと思われる。今後は、より効果的な企画となるよう進化させていきたい。

最後に、本講座の開催に当たり、御協力いただいた関係団体及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



講座終了後、全員で記念撮影

## 第39回東北建築賞（作品賞）選考報告

選考委員長 大沼 正寛

### 1. 応募作品

・小規模建築物部門	7点
・一般建築物部門	16点
・その他の建築物部門	2点
計	25点

### 2. 選考経過

#### (1) 事前打ち合わせ会議

2018年9月20日（木）14:30～16:00  
於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

#### (2) 東北建築作品発表会

2018年10月6日（土）10:00～16:00  
於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第29回東北建築作品発表会において応募25作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

#### (3) 第1次審査会

2018年10月6日（土）16:15～16:55  
於 せんだいメディアテーク2階会議室  
東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門、その他の

建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。全作品の中から一人5票以上8票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門2作品、一般建築物部門8作品、その他の建築物部門2作品の合計12作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された12作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

#### (4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

#### (5) 第2次審査

2019年2月2日(土) 13:00~17:00

於 日本建築学会東北支部会議室

まず、大沼委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象等を確認した。作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。投票および討議の結果、一般建築物部門から作品賞3作品と特別賞1作品、その他の建築物部門から特別賞1作品の計5作品を選定する事に決まった。

#### (6) 選考結果

作品賞 3作品

##### ◆気仙沼図書館・気仙沼児童センター

【施主】気仙沼市 市長 菅原茂

【所在地】宮城県気仙沼市笹が陣3番30号

【設計監理】株式会社 岡田新一設計事務所

構造：株式会社 織本構造設計

設備：株式会社 環境エンジニアリング

ランドスケープデザイン：

株式会社 背景計画研究所

【施工】建築：株式会社 クマケー建設

電気設備：白石電気工事株式会社

機械設備：株式会社 米倉設備工業

外構：株式会社 アスリード

##### ◆学校法人堀内学園幼保連携型認定こども園菜根こども園

【施主】学校法人堀内学園 理事長 堀内恵梨子

【所在地】福島県郡山市菜根1丁目13-20

【設計監理】意匠：有限会社 辺見美津男設計室

構造：村田龍馬設計所

【施工】株式会社陰山工務店

##### ◆市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー「ナセBA」

【施主】米沢市

【所在地】山形県米沢市中央一丁目

【設計】株式会社 山下設計

【工事監理】米沢市

【施工】

建築／金子・網代・白井特定建設工事共同企業体

機械／黒澤・情野特定建設工事共同企業体

電気／東北電工・効ハ電工特定建設工事共同企業体

特別賞 2作品

##### ◆旭陽電気株式会社宮城工場

【施主】旭陽電気株式会社代表取締役社長 金山光雄

【所在地】宮城県黒川郡大和町大和里サーチパーク

【設計監理】有限会社 NOA 環境設計

代表取締役 羽村 弘／羽村 祐毅

構造：有限会社 松本構造設計室 松本 年史

【施工】建築：株式会社 安藤・間

設備：隼電気株式会社／大成設備株式会社

外装：旭ビルウォール株式会社

##### ◆ふたば富岡社屋／郡山社屋／富岡の蔵

富岡社屋

【施主】株式会社ふたば

【所在地】福島県双葉郡富岡町

【設計監理】株式会社はりゅうウッドスタジオ

構造：エーユーエム構造設計株式会社

設備：株式会社エム設備設計事務所

／遠山設備設計

【施工】東北工業建設株式会社

郡山社屋

【施主】株式会社ふたば

【所在地】福島県郡山市

【設計監理】株式会社はりゅうウッドスタジオ

構造：エーユーエム構造設計株式会社

【施工】株式会社芳賀沼製作

富岡の蔵

【施主】遠藤秀文

【所在地】福島県双葉郡富岡町

【設計監理】株式会社はりゅうウッドスタジオ

【施工】はりゅうコンストラクションマネジメント株式会社

## (7) 講評

### 作品賞

#### 【気仙沼図書館・気仙沼児童センター】

施主グループとの協働を重ね、図書館建築のノウハウが十分に発揮された建築といえます。被災地に残された文教の丘にあり、小学校の校庭の延長ともいえる立地であるため、学校帰り子どもたちの居場所となると同時に、幼児から高齢者まで多世代が集う様々な機能が併設され、それらがしなやかに配置されています。外観シルエットに旧図書館の印象を意識したとするコンセプトは、市民万人に理解されるか、あるいは重要かどうか、との指摘もありましたが、逆にいえば、建築形態が奇をてらわず、各種面材のテクスチャや色彩計画に力点が置かれていることが、現代的な印象につながっています。市民・地元企業との共創が意図された什器類や、各コーナーにおける光・視環境の工夫など、多世代向けのデザイン、バリアフリー・ユニバーサルデザインが展開されており、当地方の施設建築を一步前進させています。港町にさわやかな風をもたらした秀作として、東北建築賞作品賞に相応しいと評価されました。

#### 【学校法人堀内学園幼稚園認定こども園菜根こども園】

かつては双葉郡富岡町で営まれていましたが、東日本大震災の原発事故により現地再建が叶わず、郡山市に新たに土地をもとめ、計画された認定こども園です。低層住宅が建ち並ぶL型の不整形敷地に対し、緩やかな扇状プランを配して土地の有効利用を図るとともに、出来るだけ建物高さを低く抑え、みごとに近隣になじませています。内部空間は、丸太と地場産の木材を利用した構造フレームによって規則的な扇状のワンルームを構成しており、それ自体には新規性やデザイン性を認めにくいとの指摘もありましたが、放射状架構の軸線が中心へ向かう内側を前面とし、園庭との連続性を高めた深い軒と広いデッキが魅力的です。雨落ち・縦樋などの巧みな処理、起伏をもたせた外構計画など、周辺への配慮と子どもの目線にあわせたヒューマンスケールな印象が暖かみを感じさせます。浜通り地方の労苦から、当施設に結実するまでの道のり、それらを丹念にまとめあげた計画・設計プロセスを含めて、東北建築賞作品賞に相応しいと評価されました。

#### 【市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー「ナセBA」】

江戸時代、上杉家が教育に力を注いだ米沢藩の良き伝統を継承しながら、雪国の地方都市のやや寂れた中心街に、新たな生命を吹き込む建築となっています。市人口は10万人に満たないにもかかわらず、本作品が完成するや、たちまち年間の来館者数は30万人を超えるようになったことが、それを証明しています。本作品の一番の魅力は、四方の壁が何層にもわたって書架となり、中心となる吹き抜けの大空間を取り囲んでいる点にあり、東北地方というよりは、まるでヨーロッパの図書館を思わせます。また積層

したボリュームの下層は、やや暗さも感じられるものの、市民に開かれたユニバーサルな回廊となっています。こうした空間構成が、周辺環境への調和、積雪荷重の分散といった諸条件に対する試行錯誤から導き出されたことは、設計者の優れた力量はもとより、発注者や利用者である市民の熱意と誇りに基づいていることを実感させます。十分な存在感があり、今後も利用者から愛され、他都市の文化施設にも影響を及ぼすことが期待され、東北建築賞作品賞に相応しいと評価されました。

### 特別賞

#### 【旭陽電気株式会社宮城工場】

先端技術産業の集積を進める宮城県大和町のリサーチパークに建つ電子部品工場です。県道264号線上のエリア入口に、電子部品工場らしい未来的なファサードを現しており、小規模ながら高いランドマーク性を有しています。インテリアにおいても、機能面のみを満たした工場建築とは異なり、十分な快適性が感じられ、働く人々の誇りと労働環境の改善に資する空間が確保されています。構法技術的な面でも、半透明アクリル製ファサードによる日射遮蔽効果、橋梁用デッキプレート2枚合わせによる屋根架構におけるダクト機能併設と工期短縮効果、精緻な施工など、随所に工夫がみられました。実質的な心臓部となる生産部門は、非公開部分もあり、一定の空間が確保されるに留まった印象もありましたが、それは産業分野の特性ともいえるもので、むしろ生産・管理・憩い・応接の各部門の合理的配置と巧みなディテールが、端正な工場建築の今後のあり方を示唆しています。以上より、東北建築賞特別賞として相応しい作品と評価されました。

#### 【ふたば富岡社屋／郡山社屋／富岡の蔵】

設計者らがこれまで開発してきた「縦ログ構法」の新たな展開を示唆するとともに、フクシマの復興への建築家の関り方を問いかけるプロジェクトとしての作品です。ふたば富岡社屋と郡山社屋に共通する2,700×1,800サイズの縦ログパネルと張弦梁は、開放的なオフィス空間を実現しています。とくに前者においては、約6m×16m、高さ6mの空間にオフィスのメイン機能が集約され、諸室がそれらを取り囲んでおり、構法の特性を生かした平面計画となっています。道路側に地域交流室とデッキを設け、周辺との関係が生み出されている点も、復興の進展との呼応を感じさせます。パネル化によって、従来課題となっていた断熱性能などが向上され、施工期間が短縮されるなど、技術的なアプローチも評価を得た点であり、地域内の生産・施工の新たな広がりにもつながると期待されます。発災後、ログ仮設住宅を中心に、様々な復興に奔走してきた設計者らの歩みとともに、建築プロジェクトのそのものが地域にどんな価値を与え得るのかを提示した、東北建築賞特別賞に相応しい作品と評価されました。

### 第39回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・大沼 正寛	東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科
委員	・高橋 典之	東北大学大学院工学研究科
	・有川 智	東北工業大学工学部建築学科
	・最知 正芳	東北工業大学工学部建築学科
	・坂口 大洋	仙台高等専門学校 建築デザイン学科
	・増田 聡	東北大学大学院工学研究科
	・山岸 吉弘	日本大学工学部建築学科
	・安部 信行	八戸工業大学 感性デザイン学部 感性デザイン学科
	・鈴木 弘二	(株)鈴木弘人設計事務所
	・加藤 彰	(株)カトー建築設計事務所
	・飛ヶ谷潤一郎	東北大学大学院工学研究科

れたものの、非常に高度な水準の研究であることに疑いの余地はなく、モデルの設定や解析は高舘氏本人が主体的に行っていることも勘案すれば、今後もさらに質の高い研究へと発展させていくことが十分に期待できる。

以上より齋藤氏の研究について、出席委員の評価と他委員による事前報告書の内容とを併せて集計した結果は、合格11名、不合格1名、棄権1名であった。不合格意見として、前述の内容と副題との不一致に由来する論述の未熟さや、導き出された結論の魅力の乏しさが挙げられたとはいえ、最終的には出席委員の合議（及び委任状）の結果、東北建築賞の審査基準にある「今後の発展が期待できる論文」として合格と判断し、研究奨励賞に相応しい業績であることで合意が得られた。一方、高舘氏の研究については、審査委員は全員一致で合格と判定し、研究奨励賞に相応しい業績であることを承認した。

## 第29回東北建築作品発表会報告

常議員（社会文化） 飛ヶ谷 潤一郎

## 第39回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

本年度(2018年度)の研究奨励賞への応募論文は、歴史・意匠分野において齋藤駿介氏(京都大学)から提出された「仙台における建物疎開跡地の処理—戦時期仙台における防空都市計画に関する研究(その2)—」の1編と、構造分野において高舘祐貴氏(東北大学)から提出された「一様流中における大スパン構造物の屋根面に作用する風圧の特性」の1編であった。

齋藤氏の論文では、第二次大戦で被災した仙台の戦前と戦後との関係を断絶ではなく、連続ととらえ、建物疎開に着目することによって、その経緯、計画・実施状況が詳細に説明されている。本論文で扱われている内容が戦災復興期でありながら、副題が戦時期である点などに若干の不整合が見られるものの、その成果は戦前と戦後との関係にとどまらず、現在にまでつながる視座を提示したものとして高く評価できる。また修士課程在学中から、本論文以外にも関連するテーマの論文を精力的に投稿しており、今後も仙台の近現代都市史研究を深めていこうとする強い意欲がうかがえる。

高舘氏の論文は、大空間構造物に作用する風荷重の特性について数値流体解析を用いることによって、従来の空力弾性モデルを用いた風洞実験や強制振動実験におけるさまざまな制約を超えた解析を可能にした力作である。本論文では、陸屋根、円弧屋根、そして吊屋根を有する大空間構造が対象とされ、逆対称一次モードで強制加振された屋根に作用する非定常空気力の特性が明らかにされている。解析のみによる結果が、実際の大型構造物にどこまで適用できるかについて、専門外の審査委員から疑問が投げかけら

平成30年10月6日(土)に、「第29回東北建築作品発表会」がせんだいメディアテーク7Fスタジオシアターにて行われた。本発表会は、「東北地方におけるすぐれた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」を目的としている。

本年度は小規模建築物部門7作品、一般建築部門16作品、その他の建築物部門2作品の計25作品の発表があった。発表会および作品賞に関する簡単な紹介の後、大沼正寛選考委員長より発表にあたっての注意事項が説明された。各発表では、1作品につき発表8分・質疑応答2分の時間配分で、作品のコンセプトやアピールポイントに関するプレゼンテーションが行われ、活発な議論が交わされた。当会は設計者間の研鑽の場であるとともに、建築学科生には建築家のプレゼンテーションを学ぶ大変良い機会でもある。今後も大学などを通して積極的に周知を行い、より活気のある発表の場とするよう努めてゆきたい。

## 第38回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員（社会文化） 飛ヶ谷 潤一郎

第38回東北建築賞表彰式は、平成30年5月12日(土)の日本建築学会東北支部総会の後にせんだいメディアテークにて行われた。本年の受賞は作品賞4作品、特別賞1作品、研究奨励賞部門1作品であった。



表彰に先立ち、小地沢将之作品賞選考委員長と増田聡研究奨励賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われ、続いて小林前支部長より各受賞者に賞状・賞杯が贈呈された。表彰後、受賞者から受賞作品のプレゼンテーションが行われ、その後の懇親会では受賞者間の交流が図られた。本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々をはじめ、選考委員長・選考委員・日本建築家協会東北支部など関係各位の準備と協力により開催できたものである。関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

## 日本建築学会作品選集 2019 東北支部選考経過

東北支部選考部会長 中田 千彦

東北支部には22作品の応募があり、支部の委員会での精密な審査の結果、15作品が現地審査の対象となった。現地審査を経て10作品を支部推薦作品とした。東日本大震災から7年半が経ち、東北地方の太平洋沿岸部、内陸部共に地域における重要な施設が失われ、またその損失にとまなう社会的、経済的、文化的なダメージは甚大であったが、今年度の応募作品には被災地域の学校の再建、地域の再生のための拠点建設、古い建物を活用したプロジェクト、地域資源の活用の新たなチャレンジといった作品が多く、復旧、復興期を経て、発災から長い苦慮を克服しようとする試みが一つずつ結実していることを実感させる作品群であった。

自然災害を経験した地域の人々が、今後の地域社会を構築していく上で何を選択し何を実行していくのかを熟慮し、その思いに多様な建築家が応えようとする真剣なやり取りを実感したという委員からの感想が感慨深い。掲載となった7作品はどれもが秀作であった。

部会長 五十嵐太郎（東北大学教授）

委員 飯田 善之（設計工房らいんあーと代表取締役）

矢野 英裕（空間芸術研究所所長）

三宅 論（岩手大学農学部共生環境過程准教授）

齊藤 和哉（齊藤和哉建築設計事務所代表）

山岸 吉弘（日本大学専任講師）

尹 莊植（秋田県立大学特任助教）

## 2018年度日本建築学会設計競技東北支部 審査報告

課題：「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」  
東北支部審査会報告

審査委員長 増田 聡

応募総数14点に対して最大5点を入選とすることを確認の上、各審査員が4つの候補作品に投票し、得票結果を踏まえて選定協議を進めた。まず、5票を獲得した「コネクタウン ～小さい経済圏での稼ぎ方～」は、旧くりでん沿線の地域特性を踏まえた農業塾や看板建築の新展開が高く評価された。「新岩沼本陣 ～新たなランドマークとしての可能性～」は、歴史的場所性を再解釈して新結節点の形成を目指す案で、中間領域の楽しい雰囲気もあり4票を集め、いずれも異議なく支部入選に決定した。

次に1～3票を獲得した6作品では、欠席委員が事前提出した講評を含め投票者が選定理由を説明した上で、作品ごとに議論し、3票獲得の「AIR×Garden」は、重伝建地区の隣接地でのアートを活かした古民家活用の提案が評価され入選となった。逆に1票の「伝統を形成する家 -志が同じ者は皆、家族である-」と「Remember-想いをのせて-」は、魅力的な建築提案に比して、課題である「そこで稼ぐ」点の弱さから入選を逃した。

さらに2票獲得の3作品を比較検討し、着眼点の的確性、空間構成の魅力、プレゼンテーションの完成度等を総合的に判断して、農業で稼ぐ仕組みとそこで生活空間を提案した「N個の集まり。それは現農風景の再提案。」と、多様に展開可能な商住複合施設の空間構成に特徴のある「狭間で生きる」の2つを入選とした。住みながら稼げる観光地の再生を提案した「かつて住みながら稼いだ観光地 -松島の住宅地と商業地の境界に価値を見出す-」は、残念ながら建築提案の魅力度や賑わい表現に難があり選外となった。全体的に本年作品の提案はやや弱いとの指摘もあったが、課題主旨に真剣に応えようとする5作品を最終的な支部入選とした。

委員長 増田 聡（東北大学教授）

委員 坂口 大洋（仙台高等専門学校教授）

増田 豊文（東北文化学園大学教授）

崎山 俊雄（東北学院大学准教授）

本江 正茂（東北大学准教授）

## 2018年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育）堀川 真之

2018年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2018 青森」は、2018年6月16日（土）に青森県観光物産館アスパム

にて開催された。発表総数は建築デザイン発表会9題、計画系38題、構造系41題の合計88題であった。当日は5会場に分かれて、建築デザイン発表会・環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。同日夕方には、会長記念講演として、古谷誠章氏（日本建築学会会長/早稲田大学教授）をお招きし「信頼に応える建築界を目指して」と題した講演会が開催された。その後、第4回建築デザイン発表会の表彰式が開催され、受賞者によるプレゼンテーションが行われた。また、第38回東北建築賞受賞パネル展示会およびJIA青森地域会等作品展示会も滞りなく実施された。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係者各位には深く感謝申し上げたい。

## 2018年度 第4回日本建築学会東北支部 建築デザイン発表賞 選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

### 1. 応募講演

9講演

### 2. 選考経過

#### 2-1 建築デザイン発表会

2018年6月16日(土) 10:45~12:25

於：青森県観光物産館アスパム 6階 岩木  
(青森県青森市安方一丁目140)

応募9講演のポスター掲示、ならびに発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。発表会は滞りなく進められた。時間厳守にご協力いただいた発表者各位、聴講者各位に感謝申し上げたい。

#### 2-2 選考委員会

2018年6月16日(土) 15:00~15:40

於：青森県観光物産館アスパム 4階 十和田

発表全体を聴講した建築デザイン教育部の部会員5名(下記参照)で、建築デザイン発表賞にふさわしい講演を選出することとした。

内規に従い、計9件の講演より1つの講演を選出することを確認し、部会員相互で協議した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、議論を通して決定することとした。

その際、内規に記載の通り、建築デザイン発表会を欠席する部会員には事前に講演梗概を開示し、賞にふさわしい候補を挙げてもらうこととしていたが、欠席の部会員からは特に候補が挙がらなかったため、選考委員会に出席の部会員の意見で決定した。

結果、次節に示す講演に第4回建築デザイン発表賞を授与することとした。

選考委員長：櫻井 一弥（建築デザイン教育部会長、  
東北学院大学）

選考委員：小地沢将之（建築デザイン教育部会幹事、  
仙台高等専門学校）

増田 豊文（東北文化学園大学）

馬渡 龍（八戸工業高等専門学校）

大沼 正寛（東北工業大学）

### 3. 選考結果

第4回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 1点  
「福島県北地域に見られる養蚕民家のコンバージョン計画」  
庄司 友貴、相模 誓雄（敬称略）  
（仙台高等専門学校）

### 4. 講評

「福島県北地域に見られる養蚕民家のコンバージョン計画」

本講演は、福島県の県北地域を中心に見られる養蚕民家に対して、住居としてのリノベーションだけではなく、新たな転用（コンバージョン）を視野に入れた計画について紹介したものである。この地域で特徴的な、「半切妻半寄棟」とでもいふべき養蚕民家の形式に対して、内部の空間構成を丁寧に読み解き、無理をせずにコンバージョンするためのリサーチを十分に行っている。最終的な提案としては、養蚕民家の梁や柱といった部分には手を付けず、畳一枚分の大きさから成るセルフビルド型の立体ユニットを考案し、それらをアッセンブルすることによって様々な用途に対応させようとするものである。その考え方は内部空間に留まらず、建物前面の通路空間や附属家などにも展開できる可能性について言及されている。

選考委員会では、本講演内容に到達するための精緻なリサーチがその背後に伺えたこと、具体化された形態の妥当性などが高く評価された。一方で、計画の骨子となるセルフビルド型の立体ユニットのスケール感や構法的な部分については改良の余地があることや、ユニットの2階部分の提案があまりなされていないことなど、計画の実現性という意味では課題があることも指摘された。しかしながら、養蚕民家のコンバージョンという現代的な課題に対して、バランス良く全体をまとめ、発表した姿勢は大いに評価すべきとの結論に達した。講演自体についても、分かりやすいプレゼンテーションに加え、質疑に対する適確な回答が

評価され、今回の賞に選出された。

## 2018 年度日本建築学会東北支部総会報告

記録担当 前常議員 不破 正仁

日時：2018 年 5 月 12 日（土） 15:00～15:25

場所：仙台メディアテーク 7 階スタジオシアター

出席者：105 名（委任状含む）

資料：

日本建築学会東北支部年報第 38 号

2018 年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料 1-1：2018 年 3 月 31 日現在 貸借対照表

資料 1-2：2017 年度 正味財産増減計算書内訳表

資料 1-3：2017 年度 正味財産増減計算書  
（予算との比較）

資料 1-4：2017 年度 同上（事業毎の決算比較）

資料 2：2017 年度 会計監査報告書

資料 3-1：2018 年度 正味財産増減予算書

資料 3-2：2018 年度 正味財産増減予算書内訳表

資料 3-3：2018 年度 正味財産増減予算書  
（事業毎の予算 昨年度と比較）

山口邦雄議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

### 1. 出席者数及び委任状の確認

出席者 44 名、委任状 61 通、合計 105 名の確認があり、東北支部会員（3 月理事会報告人数）1,106 名の 1/30（36 名）以上に当るため、本総会が成立することが確認された。

### 2. 支部長挨拶

小林淳支部長による挨拶があり、今年度の総会が通常通りに開催できたこと、東北支部の現状などが報告された。

### 3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、畑中友氏及び山岸吉弘氏が選出された。なお、事業報告・決算報告は 5 月の本部通常総会での報告事項となっており、支部総会では報告のみとし議長は設けないこととした。

### 4. 議事

東北支部規程により、以下（1）（2）の事項について報告された。

#### （1）2017 年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2017 年度事業

野内英治常議員より、支部年報 17～18 ページの「2017 年度事業報告」に基づき、2017 年度事業内容が報告された。

##### 2) 2017 年度収支決算

町野東彦常議員より、資料 1-1「貸借対照表」、資料 1-2「正味財産増減計算書内訳表」、資料 1-3「正味財産増減計算書（予算との比較）」、資料 1-4「正味財産増減計算書（事業毎の決算比較）」に基づき、2017 年度収支決算が報告された。

#### 3) 会計監査結果

志賀俊輔支部監事より、資料 2「会計監査報告書」の通り、2017 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

#### （2）2018 年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2018 年度事業計画（案）

本江正茂常議員より、支部年報 19～20 ページの「2018 年度事業計画（案）」に基づき、2018 年度事業計画案が説明された。

##### 2) 2018 年度収支予算（案）

町野東彦常議員より、資料 3-1「正味財産増減予算書」、資料 3-2「正味財産増減予算書内訳表」、資料 3-3「正味財産増減予算書（事業毎の予算 昨年度と比較）」が説明された。

上記（1）（2）の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2018 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

## 研究部会活動報告

### (1) 歴史・意匠部会

部会長 永井 康雄

前年度より引き続き「歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究」をテーマに据えて活動し、国立近現代建築資料館で開催された企画展「明治期における官立高等教育施設の群像」では東北帝国大学や米澤高等工業学校関連資料の展示に本部会員が協力した。

みちのくの風 2018 青森では、歴史・意匠関連の発表は 15 題（前年度 19 題）であった。

建築学会全国大会では本部会から提案された研究課題が研究協議会と PD で採択された。研究協議会は 9 月 4 日に「歴史的建築の担い手—新しい保存と活用」というテーマで開催した。広範囲な自然災害の頻発、歴史的建築の基本情報を全国規模で把握するデータベースの作成と活用、ヘリテージマネージャー等の新たな担い手の育成、文化財保護法の改正など歴史的建築を取り巻く状況が大きく変わりつつあることと、それらの対応について討論した。参加者 156 名。PD は 9 月 6 日に「雪国の建築文化とその継承—雪国の暮らしを支えてきた多様な生活文化とまちづくり」というテーマで民家小委員会の協力を得て開催した。雪国で

は中門造や曲屋、町場における雁木通り、地域色豊かな雪囲いなど多様な建築文化が育まれてきた。それらを継承し、今後のまちづくりに活かす方法について討論した。参加者31名。9月5日には歴史・意匠系懇親会を青葉城本丸会館にて開催した。資料展示館の見学と仙台城復元CGの上映も行った。参加者120名。9月7日には記念事業の見学会「建築遺産をめぐるバスツアー（西行き）」を開催した。本部会員の案内・解説により、村田町村田重要伝統的建造物群保存地区・旧大沼家住宅（重文）、教育資料館（旧山形師範学校・重文）、文翔館（旧山形県庁舎及び県会議事堂・重文）、国史跡山形城跡・東大手門（復原）・旧済生館本館（重文）を見学した。参加者18名。

## (2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

建築計画部会は研究者・設計者を中心に構成され、建築計画に関わる研究・実践の両面から課題の整理や実践的手法に取り組んでいます。東日本大震災の発災から8年が経過し、復興事業の進展に伴い、災害公営住宅への入居やコミュニティ形成が進展し、新たなステージに移行する自治体が増えるにつれて、被災地ごとに地域状況・復興状況の違いにより新たな課題も浮かび上がってきています。幾つかの地域においては部会メンバーが調査研究や具体的な政策へのフィードバックに関わっています。また2016年4月に起きた熊本地震、2018年9月北海道胆振東部地震による被害調査や課題共有についても各支部との情報交換や課題の共有、メンバーによる現地における合同調査や復興政策立案を支援する資料提供なども継続的に行われています。

平成30年度の建築計画部会は、部会としての企画・事業を行っていないもののコアメンバーによる復興事業の課題の共有、次年度の活動方針について意見交換を行いました。その中の一つとして、部会メンバーによる福島県の帰還困難区域の制限が解除された地域における復興現状の視察や基礎的な実態調査などを行っています。関連して9月に行われた日本建築学会大会記念シンポジウム「祈りを包む建築のかたち福島・世界を念ひながら」（2018年9月5日@東北大学百周年記念会館）においても部会メンバーを中心となり企画・立案が行われ、福島での継続的な課題を様々な場面において共有しています。次年度、建築計画部会でも継続して東日本大震災における復興課題の共有と新たなフェーズに対応すべき課題の検討を行う予定です。また継続して各自治体、JIAなどの関連団体との連携も深めていく予定です。

## (3) 地方計画部会

部会長 小地沢 将之

地方計画部会は、委員を刷新した初年度であった。今年度は「小地域のエリアマネジメント」をテーマに、教育研

究や実務のさまざまなフィールドで活躍する部会員の関心領域の擦り合わせを行った。

2019年3月17日（日）には「石巻からはじまる復興まちづくり」と題した見学会と座談会を石巻市内で開催した。見学会は、午前と午後それぞれ実施した。午前は、地域コミュニティが主体的に運営し、車両をシェアする取り組みであるコミュニティ・カーシェアリングの事例として、三ツ股第二復興住宅を拠点とした活動を見学した。この取り組みは単なる交通手段の補完に留まらず、買い物ツアーや小旅行などを通じた会員相互の交流ツールとしてシェアカーが介在していることについて説明を受けた。午後は、コンテナやトレーラーハウスを並べた仮設の商業施設であるCOMMON-SHIP 橋通りなど、石巻市の中心市街地での取り組みを見学した。多様な主体が関与できる場づくりが着実に行われているようすが確認できた。その後の座談会では、2つの事例のショートプレゼンテーションの後、部会員らによるコメントや類似する先進事例の紹介を経て、登壇者によるパネルディスカッションを行った。ここでは、住民本位の持続可能な地域のあり方や、集落の拠点のあり方などについて議論があった。これらの提起は、次年度の研究活動につながる予定である。



## (4) 構造部会

部会長 木村 祥裕

構造部会では、例年JSCA東北支部との協働によりJSCA構造デザインコンペや講演会など、産学の連携を図ってきた。6/24に開催されたJSCA東北支部構造デザインコンペには、東北各県の大学・高専の学生による10チームが参加し、盛会であった。加えて、今年度は東北支部研究補助費「災害時の避難所となる空間構造物の耐震性能調査と非構造部材の損傷防止法の開発」が採択され、東北地方の若手研究者主導で取りまとめが行われた。最初に、東北6県の学校体育館などの空間構造物に関するデータ（全745件）を収集し、屋根構造の形状、構造部材形状、屋根柱脚形状を整理した。次に、東北地方太平洋沖地震において、災害時の避難所となる空間構造物で構造的被害が発生し、避難所として利用できない事象が発生した。本調査では、空間

構造物の地震後の補強、改修状況の調査を実施し、今後の避難施設としての耐震性能の在り方や課題を抽出した。構造被害を受けた学校体育館では、RC 下部構造と鉄骨屋根の接合部におけるアンカーボルト破断である。震災後それぞれの建物で補修、改修が実施されており、①支承部にゴム設け接合部で発生する回転角を許容できるようなシステム、②接合部をコンクリートで根巻きし、完全な剛接合としたシステム、③支承部被害を発生させない設計ではなく、同様な被害が発生することを許容し、屋根の落下防止治具を支承部に設けるシステムとしていた。実際に改修、補修の設計を行った設計事務所によると、被害の発生原因を考慮したものの地震力の伝達経路等、未だ不明な点が多く、現段階での最善の方法をとったとのことである。本調査により、学術的背景が整っていないまま改修・補修が進められている現状が明らかとなり、今後の地震により再び被害が発生する可能性もあることから、早急な対策が必要であることがわかった。

今後も、見学会、講演会を今後も継続的に開催し、建築構造に対する産学官のネットワーク強化を図っていきたい。

## (5) 環境工学部会

### 部会長 小林 光

「東北地方の建築・都市の統合的な環境 負荷削減のあり方に関する研究」を課題として活動を行っている。今期は定常的な活動として2回の部会開催と市民向け、専門技術者向けの研究会・見学会等の主催、共催、後援等を実施した。当部会の活動は空気調和・衛生工学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部他の関連学協会との共通点も多く、定例的なイベントの共催・後援なども増えている。

今年度の建築学会東北大会では、当部会による研究協議会「情報化がもたらす建築および環境分野の変革」を開催した(開催の概要は建築雑誌2月号を参照されたい)。階段教室がすし詰めになるほど多くの参加者を得て大変盛況であり、情報化と環境に対する興味の高さをうかがわせた。また、8月には親と子の都市と建築講座2018「どうやって、おうちを「スマート」にするの?」を開催した。こちらも情報化をテーマとした親子向けの座学と体験学習の企画で、子供たちが実際にマイコンを使った簡単なシステムの構築とパラメータ設定等を体験した。当部会では、今後とも情報化と建築環境工学のテーマを一過性のものとせず、研究会その他の継続的な活動を通じて情報収集・情報発信を検討している。

部会運営面に於いては、新たにゼネコン設備設計者の参加を得るなど、幅を広げながら、何より部会員に役立つ学会支部活動を展開したいと考えている。



親と子の都市と建築講座2018 (環さんサロンにて)

## (6) 材料部会

### 部会長 西脇 智哉

2018年度の材料部会では、2017年度に引き続き「サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み」をテーマとして活動を行った。部会を3回開催(うち1回は施工部会との共同開催)して委員間の情報共有に注力した。また、今年度から新規委員として迫井裕樹氏(八戸工業大学)、大塚亜希子氏(秋田県立大学)、小島真一郎氏(仙台コンクリート試験センター)の3名が新たに委員として参加いただくこととなった。五十嵐豪氏(東北大学)、松川欣司氏(BASF ジャパン)は異動のため本部会での活動は今年度限りとなった。これまでのご尽力に感謝するとともに、新天地でのご活躍を祈念します。

本年度の開催実績は次の通りである。第1回部会は、「みちのくの風2018 青森」にあわせて、6月16日(土)に会場の青森県観光物産館アスパムにて開催し、コンクリートの凍結融解抵抗性に関する共通実験について意見交換を行った。この共通実験は2019年度より稼働予定である。第2回部会は、9月21日(金)に岩手県立大学を会場に、松村光太郎委員より岩手県立大学での講義や研究に関する取り組みについてご紹介いただいた。数学や構造などに対する苦手意識を持った学生が含まれる中で、コンテスト形式の参加型講義や、実物の建材サンプルを積極的に活用するなどの数多くの工夫を取り入れていることが紹介された。また、建物表面の温度と着雪・落雪に関する研究について、危険性がある一方で、断熱効果など着目すべき点があることを紹介いただいた。第3回部会は、施工部会との共同開催として、仙台市戦災復興記念館にて12月13日(木)に建築研究所・宮内博之博士から「建築生産におけるドローンの活用」と題したご講演をいただいた。ドローンの活躍が期待される施工現場や検査・維持管理への適用事例、その課題などを幅広くご紹介いただいた。

## (7) 施工部会

### 部会長 飯藤 將之

平成30年度、「建築施工における技術継承と新たな展開」

をテーマとして活動した。技術継承に関しては、5月の定例会で、委員が所属する企業における人材教育・社内研修の取り組みを紹介していただき、10月には、大阪地震で再度焦点が当てられたブロック塀の問題について、最知委員（東北工業大学）から詳細な報告をしていただいた。新たな展開に関しては、7月に10階建て集合住宅にCLTを用いた高森プロジェクトの見学会を実施し、12月に建築研究所の宮内氏をお招きして、「施工におけるドローンの活用」に関する講演会を開催した。更に、2月には、西脇委員（東北大学）から途上国におけるコンクリートの非破壊試験に関する試みについて紹介していただいた。

建設業における担い手不足が起きているなか、どう人材を育てて、また、不足する人員を技術革新でどのように補って行くかは、建設業界の大きな課題であり、今後とも、部会員の間で、知恵を共有したいと考えている。

## (8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2018年度は、6月の「みちのくの風」に合わせて開催した「第4回建築デザイン発表会」の開催を大きな事業の一つとした。建築デザイン発表会の終了後に、部会員による「第4回建築デザイン発表賞」の選考を行った。また、もう一つの大きな事業として、2014年度よりJIA（日本建築家協会）東北支部との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー2018」を本年度も実施し、実りある成果が得られた。

第4回建築デザイン発表会は、2018年6月16日(土)10:45～12:25に、「みちのくの風2018」内の事業として青森県観光物産館アスパムにて行われた。応募9講演のポスター掲示と発表があったが、デザイン発表会らしく、様々な視点からまとめられたバラエティに富んだ内容であった。例年よりも発表数が多かったため、賑やかな開催となった。

建築学生テクニカルセミナー2018は、2018年11月30日(金)13:00～15:00に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで行われ、学生約50名、一般市民約20名、建築関係者約30名の計約100名が参加した。

上記2つの大きな事業に加えて、第22回JIA東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は2018年10月19日(金)12:30～17:50、実施場所はせんだいメディアテーク1階オープンスクエアである。2014年度より実施しているものであるが、建築実務界と教育機関との重要な交流の場として機能していると考えられる。

2019年度は今年度と同様、建築デザイン発表会の開催等を大きな柱として事業を進めていく予定である。

## (9) 災害調査連絡会

部会長 佐藤 健

災害調査連絡会では、地震などの自然災害が発生した際に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長（佐藤健）のもと、支部内の8研究部会（構造、材料、建築計画、地方計画、歴史意匠、施工、環境工学、建築デザイン教育）の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員（秋田県立大・板垣直行教授）と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。2018年度は、2018年6月18日に発生した「大阪府北部の地震（M6.1、最大震度6弱）」および2018年9月6日に発生した「平成30年北海道胆振東部地震（M6.7、最大震度7）」の現地調査等について、東北支部としての調査団を組織することはしなかったが、東北大学災害科学国際研究所（五十子幸樹教授、大野晋准教授、柴山明寛准教授、定池祐季助教ら）と連携し、調査計画の打ち合わせや、調査結果の情報共有等を行った。

### 支所だより

#### 青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2018年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

6月4日第1回幹事会において、講習会等の年間事業計画および収支予算等を議決・承認しました。その後も打ち合わせを重ね、事業の実施に向けて細部を検討いたしました。

7月4日に開催した全員協議会では、幹事会で議決された事業計画を報告、出席者全員に協力をお願いするとともに親睦を深めました。また、地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所森林資源部研究管理員の上野文明様を講師にお迎えし「木造公共建築物の県産材活用 ～八戸市立西白山台小学校の事例から～」と題し、県産材の公共建築物等への利用促進に関しご講演いただきました。2017年度第38回建築学会東北支部東北建築賞を受賞した西白山台小学校は地域産木材（県産材）を構造



材、内装材、造作家具などに活用、また、大規模施設でありながら、構造に無垢製材品（構造用製材）を可能な限り使っています。その県産材の供給は地域の森林組合が担いましたが、設計上必要な強度等級を持つ材を揃えるために、ヤング係数の測定などで林業研究所が協力しました。公共建築で求める木材の性能・品質をどう確保し、供給したのか、そしてどう使われたのかについてお話を伺いました。

6月16日「みちのくの風2018 あおもり」が青森県観光物産館アスパムにおいて東北支部事務局はじめ、総務企画担当常議員、JIA 青森地域会ほかの皆様のご協力により開催され多くのご参加をいただき盛会裏に終了しましたことに感謝申し上げます。

10月6日、7日には2018年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催されました。

青森支所では、今後も地域にねぎした活動で貢献してまいります。

## 秋田支所

### 秋田支所長 荻谷 哲朗

「第47回秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクール」が、本年も多数の応募者の参加により無事行われました。審査の方法について、関係者各位による活発な議論が事前に行われたため、審査のプロセスは非常に合理的進行することができました。その結果、各審査委員の3位以内に殆ど完璧に、全体の上位3者が入っているので、極めてリーズナブルな採点となったものと理解できます。そこでの議論の中で、今後、CADを越えたプレゼンテーション力を養うことの必要性が促された様に考えられます。その結果として2月8日の秋田さきがけ新聞朝刊にその結果が好意的に報道されました。最優秀賞の秋田県知事賞は、秋田県立秋田工業高等学校の、鳥井菜乃子さんと藤崎麗花さんによる『月と太陽へのオマージュ～路地・裏窓 そして光さす千秋ブロードウェイ』が選ばれました。秋田駅前の中心市街地ナカイチ隣接地に混在させた複合的な計画であり、隙間空間である金座街を路地空間として活かし、ワクワクする様な造形美や構力、表現力、仕掛けなどが高く評価されたものである。総評としては、それに限らず、高校生の力量が年々上がってきており、意気込みを感じることができました。一般的にテーマも、地域の課題や土地の歴史など、よく考えられているものが多かった。高校生らしい自由な発想が多く見られ、また、表現力の向上が見られた。また、優秀賞の秋田県教育委員会教育長賞の『最後の空爆地「土崎」から平和の発信地「TSUCHIZAKI」へ』は最優秀賞と甲乙つけがたい作品であると評価された。表彰式は秋田市文化会館地階の展示ホールで2月9日に行われ、豊かな気分を味わえる時間を過ごす事が出来た。



表彰式写真

## 岩手支所

### 岩手支所長 伊藤 勇喜

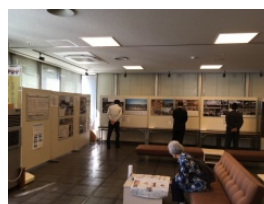
2018年度の岩手支所の活動状況について報告します。

平成30年11月27日（火）に「第42回盛岡市都市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。

今回のシンポジウムでは、「わたしの好きなまち盛岡～まちの魅力の再発見～」と題し、基調講演では、大塚富夫氏（IBC 岩手放送アナウンサー）を迎え、盛岡での出来事や、これからの盛岡について思うことなどを御講演、また、パネルディスカッションでは、コーディネーターに畑中美耶子氏（もりおか歴史文化館館長）を、パネリストには阿部アユイスカンドル氏（大通ラトゥアユ代表）、久保田剛氏（喫茶GEN・KI 店長）、さいとうゆきこ氏（イラストレーター）、脇田佳一郎氏（桂汎用工房代表）を迎え、「まちの魅力の再発見」をテーマに、身近な生活景観をはじめ、これまでの盛岡のまち並みの変遷を振り返りながら、次世代に継承すべき魅力ある盛岡の景観など意見が交わされました。まとめとして、ただ景観を守るということではなく、今後どのように手を加えていくべきなのか、それが将来どう評価されるのかという視点が重要であるとの意見が提起されました。

また、平成30年11月5日（月）～11月9日（金）には「第38回東北建築賞作品展示会」を岩手県庁県民室にて開催いたしました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し後援などを行うとともに、機会を捉えて地域社会との交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。



東北作品展示会



シンポジウム

## 山形支所

山形支所長 相羽 康郎

保存建築物を核にしたまちづくりをテーマとしたワークショップ(WS)を、JIA、建築士会、建築士事務所協会の協力のもとで合計2回行った。具体の建築物として、指定文化財の旧山形師範学校木造講堂(旧講堂)と、旧西村写真館を資料とした。2回ともWSは空き家、構造、意匠計画の3グループで各コーディネーターは継続した。山形中央公民館でいずれも約15名の参加者であった。

### 第1回目 11月17日

WSに先立ち、羽田設計の水戸部裕行氏、安達和之氏から庄内町新産業創造館クラッセ、東根市東の杜資料館改修工事について事例報告があった。



旧講堂の活用方針に

よって外観と内部のどちらを重視するかが決まる。他の高校木造講堂で同窓会が運用している例がある。山形で大きな地震がなかったため木造建築物はたまたま残っているだけで、計算では風地震に低い数値である。補強して1.0まで上げると流通できる。しかし公的施設などハードのみでなくソフトで対応する方法を考える必要もある。

### 第2回目 2月2日

旧講堂など建築物の使い方と保存の意味によって方法が異なり、前提条件が重要である。



空き家の体系的な活用・維持等方策イメージは、重要事項説明で耐震等性能記載の必須化、確認可能な性能カルテのシステム化が。木造住宅を大規模修繕するときの構造チェック制度はなく、50年以上の住宅の再評価にあたって条件を明示したらどうか。一般診断に対して精密診断は構造計算が入ってくる。一部破壊検査等も必要になる可能性がある。一方建築基準法とは別に伝統的建築物の構造専門家が必要である。



日本にはスケルトンインフィルの考え方が普及していない。構造、内外装、設備で耐久年数がそれぞれ違う。

## 福島支所

福島支所長 新関 永

2018年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

今年度は、『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』の活動や建築関係団体との『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第11回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式』への協賛、『第38回東北建築賞受賞作品展示会』の実施を中心に活動しました。

『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』では、歴史的建造物を保全・活用し、本県の建築文化を育み、美しい景観等を実現するため、年間計13回の講習会を実施し、歴史的建造物の保全活用の専門家(ヘリテージマネージャー)の育成、派遣、活用等を行いました。

『建築士事務所キャンペーン』は、2月19日に郡山市田村町の「日本大学工学部50周年記念館(ハットNE)」で開催しました。キャンペーンは、建築関係



【建築士事務所キャンペーン】

者だけでなく、一般の方々も含め約140人に参加いただき、「ロハスの工学とサステナブルなシステムデザイン」と題し、日本大学工学部工学研究所次長の柿崎隆夫機械工学科教授が講演、環境に配慮したエコキャンパスとして6年前に完成した「70号館」や再生可能エネルギーを活かして持続可能な生活環境実現に取り組む大型研究施設「ロハスの家」の見学など建築に触れる機会を多くの方と共有できました。

2月20日に福島市で実施した『第11回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式』では、4校12人に表彰状と盾、記念品を贈り、高校生活で培った技術や創造性をたたえしました。

『第38回東北建築賞受賞作品展示会』については、2月12日から14日までの3日間、郡山市にて、「JIA東北支部福島地域会」及び「日



【東北建築賞受賞作品展示会】



本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。

今後も学術的な研究等を福島の復興や地方創生に向けて広く還元し、発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業の更なる充実に努めてまいります。

## 支部役員会から

### 常議員（総務企画）橋詰 豊

支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が5月、7月、9月、12月、2月、3月に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。また、支部役員会の開催に際しては、今年度より導入したWEBEXを介しての参加も可能としており、移動時間削減に伴う出席者の増加と、旅費削減に効果を上げている。

さらに、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割を果たしている。本年度は「みちのくの風2018青森」と題して、第81回東北支部研究報告会と併せて第4回東北支部建築デザイン発表会が開催され、6月16日（土）に、青森市の青森県観光物産館アスパムで開催された。招待講演・会長基調講演として「信頼に応える建築界を目指して」と題して、古谷誠章先生（本会会長・早稲田大学教授）による講演が行われた。同会場では、第38回東北建築賞受賞作品展示会とJIA東北支部のご協力を得て、JIA青森地域作品展示会を同会場にて開催した。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうち無事終了することができた。

この他、支部長と総務・企画担当常議員は4月に総務会を開き新年度の準備に当たったほか、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。2018年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

#### ■4月総務会（2018年4月26日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、代議員選挙結果、支部推薦理事候補者・常議員選挙結果・役割分担、支部研・デザイン発表会論文募集の報告と懸案事項、建築年報への事業報告、支部年報編集報告[審議事項]総会資料（司会進行・懇親会）、みちのくの風2018青森、みちのくの風2019岩手について、後援依頼、研究委員会部会規則の

文言確認、支部創立70周年記念に際して、支部長引き継ぎ

#### ■5月支部役員会（2018年5月12日開催）

[新旧役員引継ぎ] [報告事項]理事会報告、総会進行確認、みちのくの風2018青森・業務確認、会計報告、建築文化週間事業報告、大会の進捗状況 [審議事項]支部長代行者、学術推進委員会への支部代表、2018年度災害委員会支部市民企画募集、オンラインストレージの使用方

#### ■7月支部役員会（2018年7月25日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、総会報告、みちのくの風2018青森開催報告、作品選集2019応募作品と支部選考部会審査経過、本会設計競技支部審査報告、後援依頼承諾、災害委員会支部企画申請、大会の進捗状況、学術推進委員支部代表、建築文化週間事業 [審議事項]本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、調査研究委員会ならびに支部での検討依頼

#### ■9月支部役員会（2018年9月21日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集2019支部審査報告、第20期代議員および支部役員選挙、東北建築賞応募報告および東北建築作品発表会、後援・協賛依頼承諾、設計競技支部入選、RC構造計算規準改定講習会開催 [審議事項]みちのくの風2019岩手、支部総会日程、選挙管理委員会の設置、2019年度設計競技支部審査員と全国審査員推薦、保存要望書提出

#### ■11月支部役員会（2018年12月10日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員常議員候補者届出報告、東北建築作品発表会、東北建築賞研究奨励賞選考委員会、後援依頼承諾、作品選集東北支部部会次期委員選出報告、2019年度設計競技支部審査員選出報告、支部研・デザイン発表会申込受付フォームの進捗状況、後援依頼承諾、構造本委員会への支部代表交代 [審議事項]大会決算報告、2019年度支部総会日程・会場・担当・付随行事、みちのくの風2019岩手、2019年度支部予算案、支部研究報告集論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、支部年報発刊、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、事務局の処遇、司法支援建築会議東北支部発足、後援依頼承諾、

#### ■2月支部役員会（2019年2月20日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、東北建築賞作品賞選考報告、秋田支所からの賞状贈呈依頼承認報告、2019年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、RC構造計算規準改定講習会の開催報告、支部年報39号原稿執筆依頼[審議事項]みちのくの風2019岩手、第40回東北建築賞要項確認、2019年度親と子の建築講座と建築文化事業、本部災害委員会への支部代表推薦、山形支所の事務所移転に伴う支所規約改正、作品選集委員の異動に伴う委員交代、事務局の給料規程

#### ■3月支部役員会（2019年3月28日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員選挙結果報告、支部研・デザイン発表会論文提出報告、災害委員会東北支部代表推薦報告[審議事項]支部総会、みちのくの風2019岩手、みちのくの風2020、支部監事、後援依頼

## 2019年度 支部役員名簿

### 東北支部常議員の構成と役割分担

役割	2018年度 (2018年6月～2019年5月)	2019年度 (2019年6月～2020年5月)
支部長	石川 善美 (東北工大)	石川 善美 (東北工大)
総務企画	本江 正茂 (東北大) 崎山 俊雄 (東北学院大) 畑中 友 (東北工大) 山岸 吉弘 (日大) 橋詰 豊 (八戸工大)	山岸 吉弘 (日大) 橋詰 豊 (八戸工大) 原田 栄二 (東北大) 畠山 雄豪 (東北工大) 相模 誓雄 (仙台高専)
社会文化	高木 理恵 (東北工大) 飛ヶ谷潤一郎 (東北大) 齋藤 和哉 (齋藤和哉建築設計事務所)	飛ヶ谷潤一郎 (東北大) 齋藤 和哉 (齋藤和哉建築設計事務所) 山田 義文 (日大)
学術教育	堀川 真之 (日大) 二科 妃里 (東北文化学園大)	二科 妃里 (東北文化学園大) 畑中 友 (東北工大)
会計会員	大橋 佳子 (仙台市) 町野 東彦 (JR 東日本)	高橋 良子 (仙台市) 田村 俊哉 (JR 東日本)
図書情報	小林 仁 (仙台高専) 浅野 耕一 (秋田県立大)	浅野 耕一 (秋田県立大) 濱 定史 (山形大)
事務局	伊藤 章子	伊藤 章子

### 東北支部会員数 (2019年3月1日現在)

名誉会員	2名
終身会員	61名
正会員 (個人)	1,113名
正会員 (法人)	35法人
準会員	54名
賛助会員	7法人

### 支部監事

2019年6月～2020年5月

崎山 俊雄 (東北学院大)

大橋 佳子 (仙台市)

### 東北支部選出代議員

任期	代議員
2018年4月 ～ 2020年3月	有川 智 (東北工業大学教授) 速水 清孝 (日本大学教授)
2019年4月 ～ 2021年3月	岩田 司 (東北大学教授) 浦部 智義 (日本大学教授)

### 研究部会長

研究部会	部会長
構造部会	前田 匡樹 (東北大学教授)
材料部会	西脇 智哉 (東北大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	小地沢将之 (宮城大学准教授)
歴史意匠部会	速水 清孝 (日本大学教授)
施工部会	飯藤 将之 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	長谷川兼一 (秋田県立大学教授)
建築ガザの教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	佐藤 健 (東北大学教授)

### 支所長

支所	支所長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	苅谷 哲朗 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	伊藤 勇喜 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽 康郎 (特定非営利活動法人まちづくり山形理事)
福島支所	大竹 健義 (福島県土木部建築住宅課長)

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2018 年 4 月 1 日 至 2019 年 3 月 31 日
<b>2018 年度事業報告</b>	

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2017 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2018 年度事業計画・予算案	2018 年 5 月 12 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (1)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、 設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2) 大会実行委員会部会連絡会 (9) その他部会など開催	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 遠藤国彦、千葉正裕、村尾 修 (新任) 有川 智、速水清孝	2017 年 4 月～2019 年 3 月 2018 年 4 月～2020 年 3 月
支部長改選	(退任) 小林 淳 (新任) 石川 善美	2016 年 6 月～2018 年 5 月 2018 年 6 月～2020 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 山口邦雄、不破正仁、野内英治、安田直民、野村俊一 一條佑介、小藤一樹 (留任) 大橋佳子、小林 仁、崎山俊雄、高木理恵、堀川真之、 町野東彦、本江正茂 (新任) 浅野耕一、畑中 友、齋藤和哉、飛ヶ谷潤一郎、二科妃里 橋詰 豊、山岸吉弘	2016 年 6 月～2018 年 5 月 2017 年 6 月～2019 年 5 月 2018 年 6 月～2020 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	高橋典之、志賀俊輔	2018 年 6 月～2019 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 木村祥裕 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 西脇智哉 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 歴史意匠 : 永井康雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 小林 光 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・災害時の避難所となる空間構造物の耐震性能調査と非構造部材の損傷防止法の開発 構造部会 (研究代表者 木村祥裕)	2018 年 4 月～2019 年 3 月
支部研究報告会	2018 年度第 81 回東北支部研究報告会 研究報告集第 81 号計画系・構造系刊行 発表題目 79 題	2018 年 6 月 16 日 青森県観光物産館アスパム
デザイン発表会	2018 年度第 4 回東北支部デザイン発表会 発表題目 9 題	2018 年 6 月 16 日 青森県観光物産館アスパム
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築教育文化事業 建築文化週間事業 第 29 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 2) 第 38 回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会 3) 第 39 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2018 青森	2018 年 10 月 6 日 せんだいメディアテーク 2018 年 5 月 12 日 せんだいメディアテーク 2018 年 6 月 16 日

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研究報告会と会長基調講演会</li> <li>・第4回建築デザイン賞表彰式</li> <li>・第38回東北建築賞受賞作品展示会</li> </ul> <p>2. 支部共催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、由利本荘市、八戸市、郡山市</li> </ul>	青森県観光物産館アスパム  2018年6月～2019年2月
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第38回東北建築賞 作品賞部門 作品賞4点、特別賞1点 研究奨励賞部門 1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰 4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 法人2社、個人会員4名</p> <p>4. 日本建築学会終身正会員9名の紹介</p>	2018年5月12日 せんだいメディアテーク
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第38回東北建築賞作品展示会：八戸市</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回東北建築賞作品展示会：由利本荘市</li> <li>・第47回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回東北建築賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回東北建築賞作品展示会：山形市</li> <li>・支所事業 建築物の保全活用に関するワークショップ</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回東北建築賞作品展示会：郡山市</li> <li>・親と子の建築講座「親と子のやさしい構造力学講座」</li> </ul>	<p>2018年7月 2018年10月6日・7日</p> <p>2018年11月16日～18日 2019年2月9日</p> <p>2018年11月5日～9日</p> <p>2018年9月25日～28日 2018年11月17日 2019年2月2日</p> <p>2019年2月12日～14日 2019年3月16日</p>
刊行活動	<p>支部年報第38号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第81号計画系・構造系ならびに第4回建築デザイン発表会梗概集(CD-ROM)発刊</p> <p>東北建築作品集(第29号)発行</p>	<p>2018年5月12日</p> <p>2018年6月16日</p> <p>2018年10月6日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	2018年度日本建築学会支部共通事業 「鉄筋コンクリート構造計算規準改定」改定講習会	2018年12月13日 ハーネル仙台 参加者：97名
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2018年7月～2018年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」</li> <li>・日本建築学会「作品選集2019」東北支部選考部会</li> </ul>	<p>2018年7月13日 支部事務所会議室</p> <p>2018年6月～9月 支部事務所会議室</p>

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
<b>2019年度事業計画（案）</b>	

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2018年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2019年度事業計画・予算案	2019年5月11日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会(1)、支部役員会(8)、総務会(1)、支所長会議(1)、東北建築賞作品賞選考委員会(3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会(1)、東北建築賞業績賞選考委員会(1)、設計競技支部審査会(1)、選挙管理委員会(2)、作品選集支部選考部会(2)、研究部会連絡会(1) 司法支援建築会議東北支部(2)、建築学会女性会員の会(1)	( )は回数
代議員半数改選	(留任) 有川 智、速水清孝 (新任) 岩田 司、浦部智義	2018年4月～2020年3月 2019年4月～2021年3月
支部長改選	(留任) 石川善美	2018年6月～2020年5月
常議員半数改選	(退任) 大橋佳子、小林 仁、崎山俊雄、高木理恵、堀川真之、町野東彦、本江正茂 (留任) 浅野耕一、畑中 友、齋藤和哉、飛ヶ谷潤一郎、二科妃里、橋詰 豊、山岸吉弘 (新任) 相模誓雄、高橋良子、田村俊哉、畠山雄豪、濱 定史、原田栄二、山田義文	2017年6月～2019年5月 2018年6月～2020年5月 2019年6月～2021年5月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	崎山俊雄、大橋佳子	2019年6月～2020年5月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 西脇智哉 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 歴史意匠 : 速水清孝 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 長谷川兼一 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究補助費による研究	・東北地方の近現代建築資料に関する研究 歴史意匠部会(研究代表者 速水清孝)	2019年4月～2020年3月
支部研究報告会	2019年度第82回東北支部研究報告会 研究報告集第82計画系・構造系刊行 発表題目 74題 2019年度第5回東北支部デザイン発表会 発表題目 4題	2019年6月29日 アイーナいわて県民情報交流センター
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第30回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市) 3) 第40回「東北建築賞」の選考 4) 第39回東北建築賞表彰式 5) みちのくの風2019岩手 ・支部研究報告会と招待講演(構造系) ・第5回建築デザイン発表賞表彰式 ・第39回東北建築賞受賞作品展示会、JIA岩手地域会作品展示会	2019年10月 2019年10月 2019年10月～2020年1月 2019年5月11日 せんだいメディアテーク 2019年6月29日 アイーナいわて県民情報交流センター

	<p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <p>2) 第39回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p> <p>3. 女性会員の会 2019</p>	<p>2019年9月～12月</p> <p>2019年6月～2020年2月</p> <p>未定</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第39回東北建築賞作品賞部門 作品賞3点、特別賞2点 研究奨励賞部門 2作品</p> <p>2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 法人会員10社、賛助会員3社 個人会員3名</p> <p>4. 終身正会員10名の紹介</p>	<p>2019年5月11日</p> <p>せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第39回東北建築賞作品展示会：八戸市</li> <li>・講習会</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞作品展示会：由利本荘市</li> <li>・第48回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞作品展示会：山形市</li> <li>・親と子の都市と建築講座</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞作品展示会：郡山市</li> <li>・親と子の都市と建築講座</li> </ul>	<p>2019年7月</p> <p>2019年10月</p> <p>2020年2月</p> <p>2019年7月</p> <p>2020年2月</p> <p>2019年11月</p> <p>2019年6月</p> <p>2019年7月</p> <p>2020年2月</p> <p>2019年8月</p>
刊行活動	<p>支部年報第39号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第82号計画系・構造系（第5回東北支部デザイン発表会込）CD-ROM 発刊</p> <p>東北建築作品集（第30号）発行</p>	<p>2019年5月11日</p> <p>2019年6月29日</p> <p>2019年10月5日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	<p>2019年度日本建築学会支部共通事業 「建築基礎構造設計指針」改定講習会</p>	<p>2019年12月</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2019年6月～11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「ダンチを再考する」</li> <li>・日本建築学会「作品選集2020」東北支部選考部会</li> </ul>	<p>2019年7月</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2019年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

## 法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)阿部重組
(株)工藤組	(株)三上構造設計事務所
(株)関・空間設計	千田総兵衛建築事務所
鹿島建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+
(株)久米設計	地域環境計画研究室
(株)熊谷組	東日本旅客鉄道(株)
清水建設(株)	東北電力(株)
仙建工業(株)	一般社団法人
大成建設(株)	東北空気調和衛生工事業協会
(株)竹中工務店	八戸工業大学
(株)昴設計	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	日本原燃(株)
(株)ユアテック	(株)楠山設計
西松建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
(株)安藤・間	(株)I N A新建築研究所
堀江工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
前田建設工業(株)	山形県立図書館
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館工学部分館
(株)三菱地所設計	東北芸術工科大学
(株)山下設計	日刊建設産業新聞社
(株)梓設計	仙台コンクリート試験センター(株)
東日本興業(株)	

---

一般社団法人 日本建築学会東北支部

支部年報第 39 号  
2019 年 5 月 11 日発行

編集責任者（図書情報担当常議員） 浅野 耕一

---